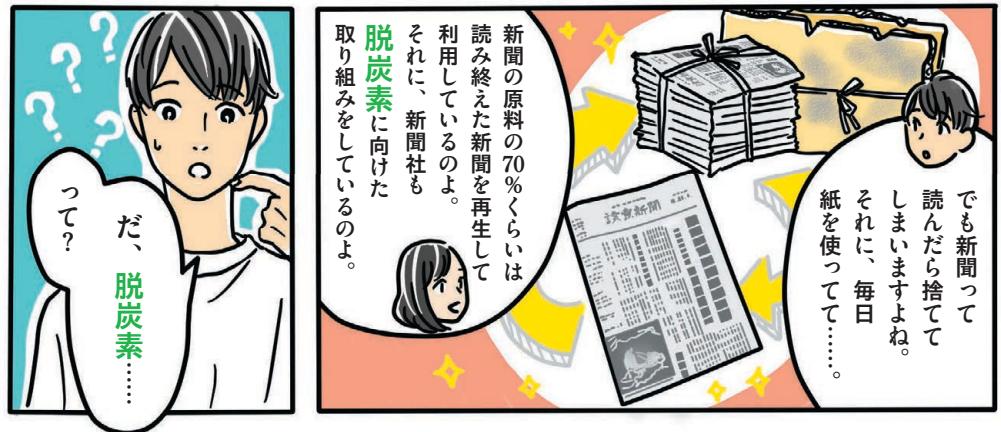
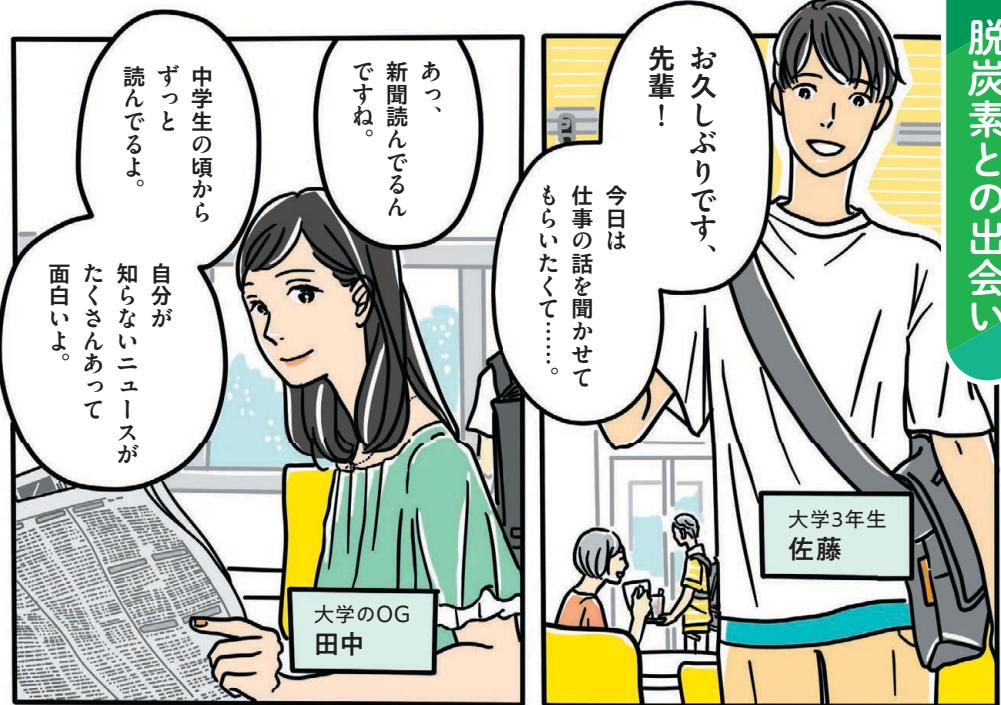
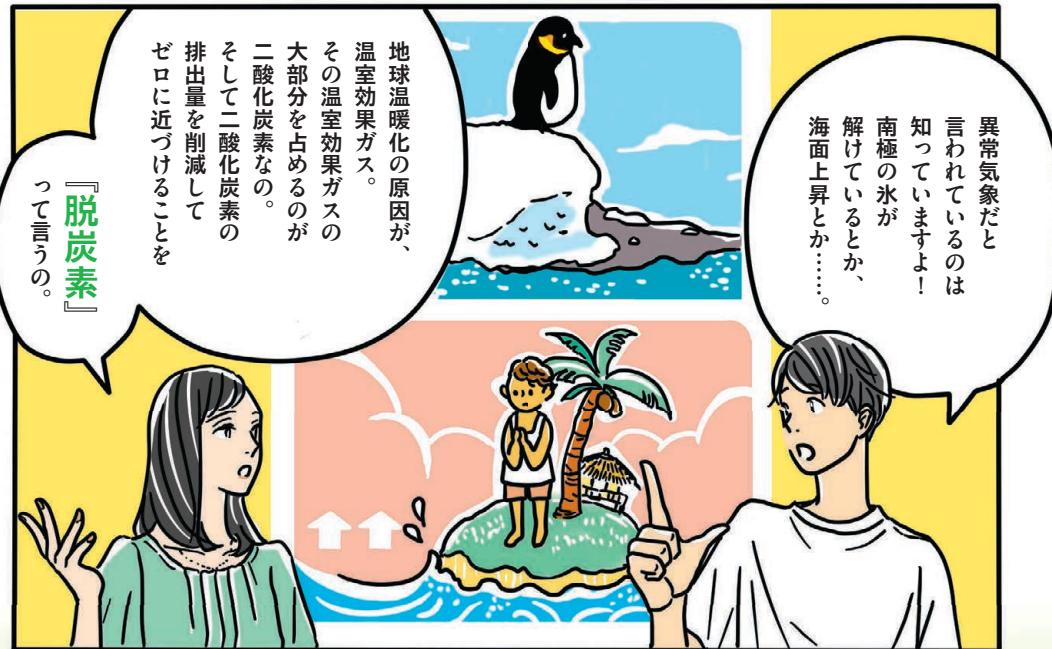
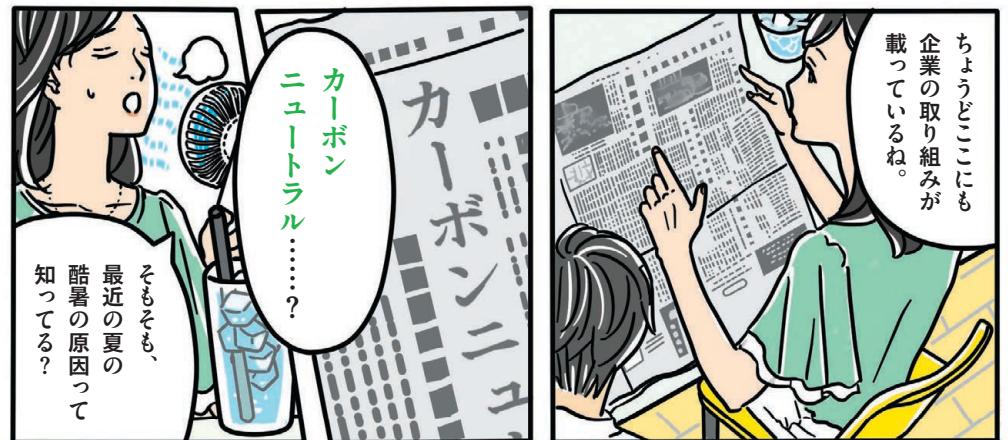


# 脱炭素に向けて できること

発行・編集 読売新聞社





## 未来に向け、脱炭素の取り組みが進められています

気候変動、地球温暖化の原因でもあるCO<sub>2</sub>（二酸化炭素）排出量を抑えるため、「世界全体のCO<sub>2</sub>排出量を2030年までに半減、2050年までに実質ゼロ」という国際的な目標のもと、世界各国が脱炭素に取り組んでいます。企業活動においても、CO<sub>2</sub>の排出量削減や吸収量アップのため、さまざまな研究や取り組みが進んでいます。この冊子では、脱炭素の基本的な情報や企業・自治体などの取り組みについて、ご紹介していきます。

### CONTENTS

- 1 [マンガ] 脱炭素との出会い
- 3 [マンガ] 地球は今、どうなっている?
- 5 日本と世界の脱炭素の目標と取り組み
- 7 読売新聞の取り組み1 クローズド・ループ（読売エコシェアリング）
- 9 読売新聞の取り組み2 「読売の森」など植樹活動
- 11 読売新聞の取り組み3 太陽光発電・EVトラックなど その他の取り組み
- 13 [マンガ] 脱炭素社会に向けて

# 地球は今、どうなっている?

脱炭素が大事なのは  
わかりました。  
でも、二酸化炭素の排出量を  
ゼロにするなんて、  
実際は無理なんじゃ  
ないですか?

そして、二酸化炭素の  
吸収・固定に  
欠かせないのが、**植物**。  
豊かな森を維持することが、  
地球の未来にとって  
とても大事なんだ。

じゃあ、  
森林伐採は  
絶対にNGですね!

実は、  
木を切らずに  
放置するだけじゃ、  
逆に森林が  
荒れてしまうの。

適切に伐採をして手を入れ、  
管理することが、  
良い循環を生むんだよ。

そのほかにも、  
脱炭素社会の  
実現に向けて、  
世界中でさまざまな  
取り組みが  
行われているのよ。

そうなんですね!!

排出量を  
最小限に抑えつつ、  
排出してしまった分の  
**二酸化炭素の  
吸収・固定**に  
取り組むことで、  
「**実質ゼロ**」に  
するってわけ。

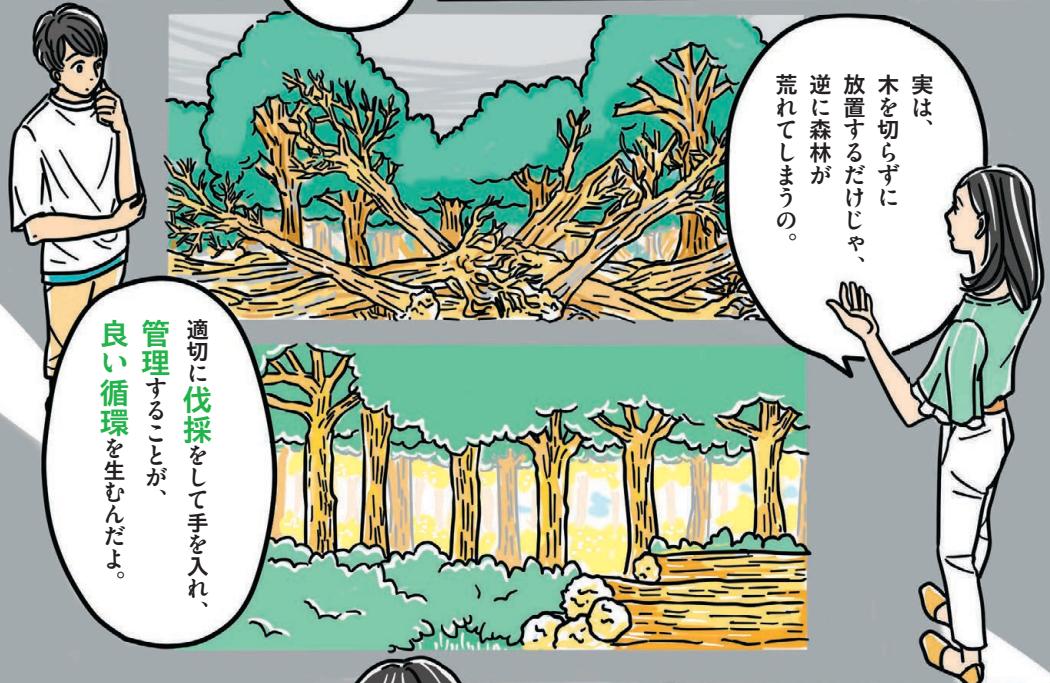
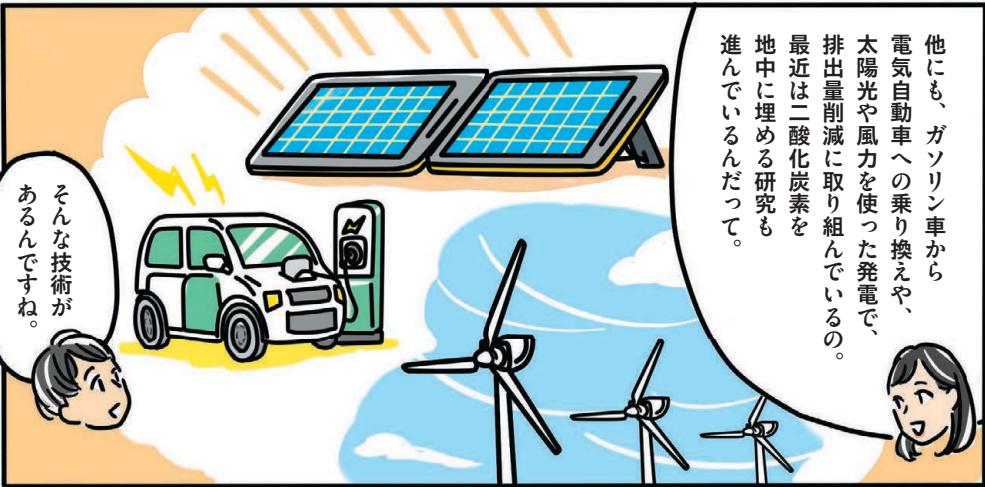
そこで登場したのが、  
**カーボンニュートラル**  
という考え方なの。

プラスマイナス  
ゼロって  
ことですか?

他にも、ガソリン車から  
電気自動車への乗り換えや、  
太陽光や風力を使つた発電で、  
排出量削減に取り組んでいるの。  
最近は二酸化炭素を  
地中に埋める研究も  
進んでいるんだって。

そういうこと。  
こうやって、  
経済活動を維持しつつ、  
脱炭素社会の実現を  
目指そうとしているの。

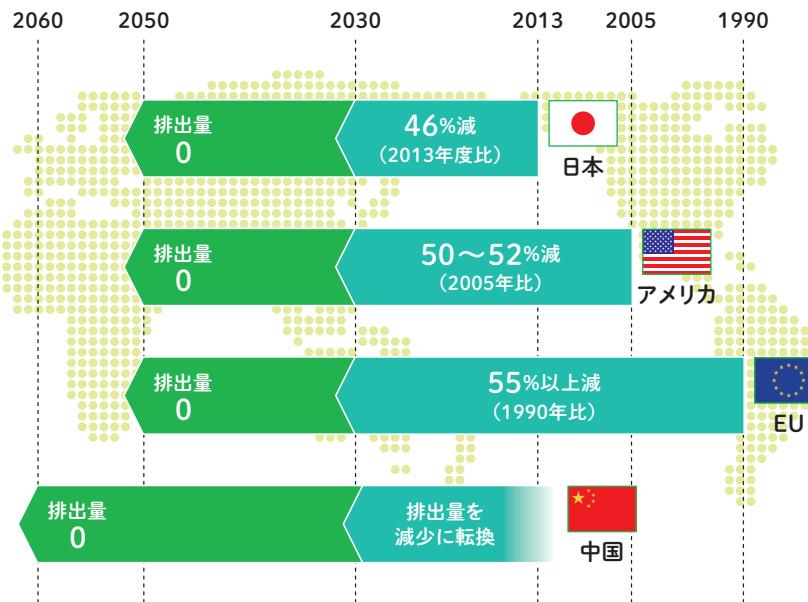
そんな技術が  
あるんですね。



# 脱炭素の目標と取り組み

日本、そして世界各国では、CO<sub>2</sub>（二酸化炭素）排出量を削減するため、脱炭素に取り組んでいます。国内でも産学官が連携し、研究や技術開発などが進んでいます。

## 各国の脱炭素目標と取り組み



中国ではEV（電気自動車）へのシフトが急激に進んでいると、新聞で読んだわ。

## 自治体や企業の取り組み

脱炭素には、政府だけでなく社会全体で取り組む必要があります。自治体や企業も排出削減目標を設定し、再生可能エネルギーの利用、EV（電気自動車）の導入、エネルギー効率の改善などを進めています。



提供：姫路市 照明デザイン：(株)石井幹子デザイン事務所

### トヨタ自動車(株)

事例  
2

#### Woven City

未来のモビリティーと都市や生活のあり方を実証するため、トヨタ自動車が、静岡県裾野市に建設中の実証都市。Woven Cityを起点に、ENEOSと共にCO<sub>2</sub>フリーの水素の製造と利用を推進するなど、カーボンニュートラルの実現を目指します。



### 日本ウッドデザイン協会

事例  
3

#### ウッドデザイン賞

読売新聞社でも、脱炭素に向けてさまざまな取り組みを行っています。次ページから、その内容をご紹介します。



### 兵庫県姫路市

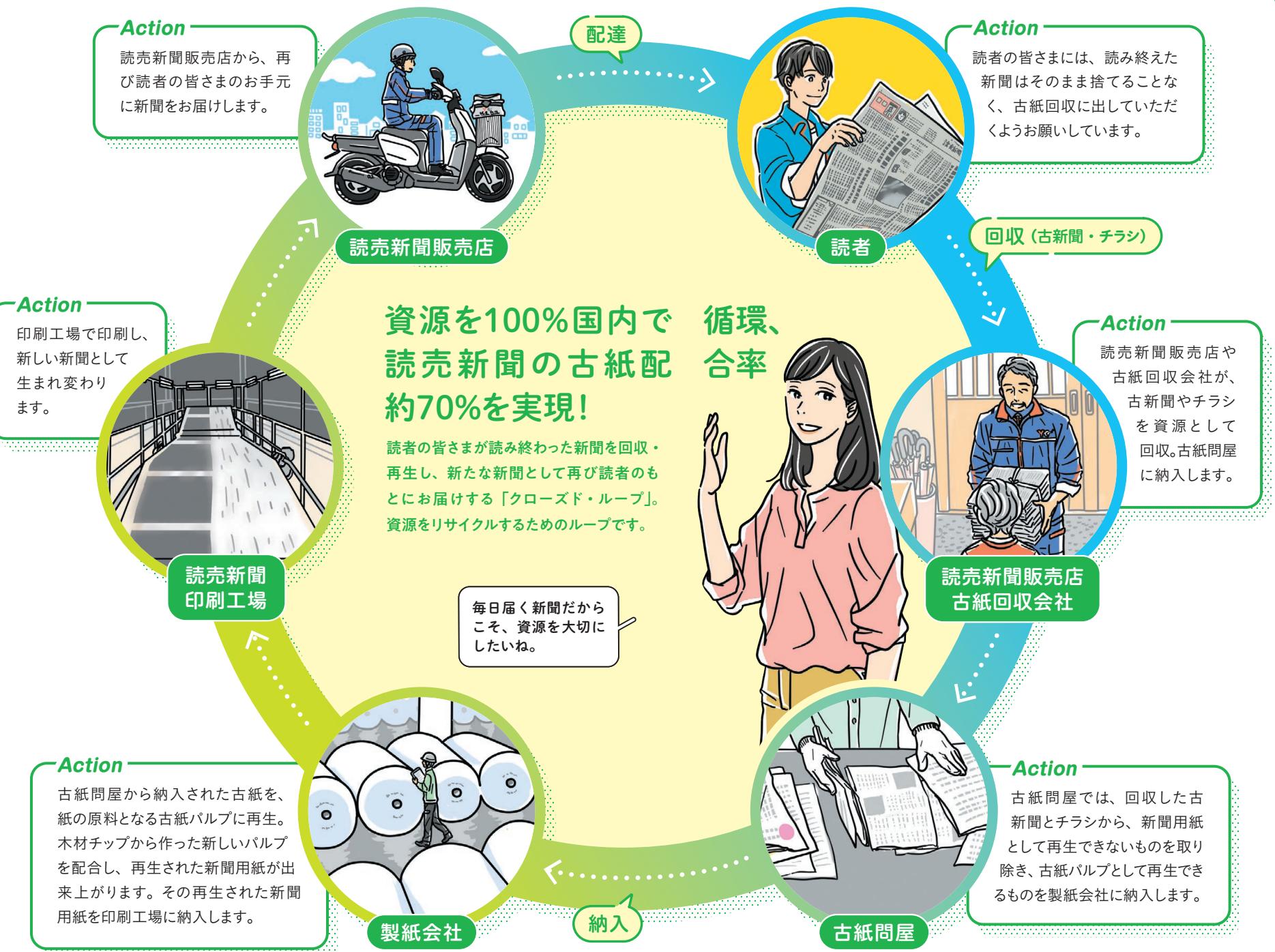
事例  
1

#### ゼロカーボンシティ

兵庫県姫路市は、2021年に「ゼロカーボンシティ」を宣言。2050年までにCO<sub>2</sub>の実質排出ゼロを目指しています。姫路城を中心とした脱炭素先行地域では、省エネ機器の導入、姫路城から離れた遊休地での太陽光発電設備の整備などを進めています。\*

※「姫路城ゼロカーボンキャッスル構想」  
<https://www.city.himeji.lg.jp/bousai/cmsfiles/contents/0000020/20745/himejidatsutanso.pdf>

読売新聞東京本社では、読み終わった新聞を再活用するため、読者や外部の事業者の協力のもと、「クローズド・ループ」(読売エコシェアリング)というリサイクル活動に取り組んでいます。





## 「読売の森」など 植樹活動

読売新聞社では、紙を利用する事業者の責任として、紙の原料となる木を育て、森林資源を守るために、「読売の森」などの植樹活動を行っています。これまでに全国各地に累計8500本以上の木を植えてきました。



読売の森（埼玉県東秩父村）

### 「読売の森」は全国10か所以上

SDGsの第12の目標  
「つくる責任 つかう  
責任」にも当てはまる  
取り組みだね。



廃牧場の森林化、水源の森の再生、花粉の少ない森づくりなどのテーマで、全国の自治体やNPOの協力のもと、これまでに10か所以上で植樹活動を行ってきました。

### 古紙回収の売り上げの一部で木を植える

2013年より、読売新聞東京本社、読売新聞販売店、古紙回収業者で組織する「読売リサイクルネットワーク」が、古紙回収の売り上げの一部で植樹活動を行う「読売の森」事業をスタート。岩手県宮古市から始まった取り組みは、全国各地で10か所以上に広がっています。

### 植樹活動で環境問題への関心を高める

地域の人たちなどと一緒に植樹や森の手入れを行うことで、里山の生物多様性を守ることや環境保護の大切さを学ぶ機会を提供しています。



読売の森（宮城県大崎市）



# 太陽光発電・EVトラックなど その他の取り組み

読売新聞社では、そのほかにも脱炭素に向けてさまざまな取り組みを進めています。

## 共同輸送

異業種との共同輸送を実施。輸送を効率化することで、CO<sub>2</sub>を排出するトラックの運行台数削減に取り組んでいます。



## 用紙輸送のモーダルシフト化

読売新聞川越工場は2025年9月から、これまで製紙工場から印刷工場まで長距離トラックで輸送していた新聞用紙（巻取用紙）について、貨物鉄道によるコンテナ輸送に代替するモーダルシフト化の取り組みを行っています。年間CO<sub>2</sub>排出量を約9割（600トン）削減します。



## 太陽光パネル設置

読売新聞の印刷工場では群馬工場に2021年、清須工場に2023年、川越新工場に2025年、太陽光発電システムを導入しました。工場の屋根にそれぞれ出力約200～500キロワットの発電設備を設置し、発電した電力を新聞印刷などに活用しています。



新聞社も色々なことをしているんですね！



## EVトラック

新聞輸送にEVトラックを導入し、工場内に充電器を設置。EVトラックは運行時にCO<sub>2</sub>を排出しないため、排出量を大きく削減できます。



## 報道

読売新聞では、1989年から90年にかけて「地球環境をまもる」という大型連載を掲載するなど、報道機関として早くから地球環境に関する問題提起を行ってきました。



2050年カーボンニュートラル（脱炭素社会）の実現に向けて、読売新聞社では温室効果ガスの排出量などをモニタリングし、取り組みを継続しています。





## 明日へつなぐ。未来を守る。

読売新聞社は、これからの中長期環境を考える  
「YOMIURI 脱炭素プロジェクト」に取り組んでいます。

読者の方が読み終わった新聞を回収、資源を100%国内で循環させ、新たな新聞として  
再び読者の皆様へお届けする「クローズド・ループ（読売エコシェアリング）」。

紙の原料となる木を育て、森林資源を守るためにの植樹活動「読売の森」。

その他にも、新聞印刷工場で太陽光発電を導入。  
EVトラックを使った輸送なども行っています。

新聞作りに関わる一人ひとりが「脱炭素社会」と  
持続可能な地球環境の実現のために、取り組んでいます。

紙で伝え続けるために。紙を守り続けるために。

「脱炭素プロジェクト」の  
動画へのアクセスは  
こちらから！



読賣新聞

<https://www.yomiuri.co.jp/>